



日本小児病理研究会 会報59号

平成25年3月14日 (木)

1. ごあいさつ

総務幹事 中山雅弘 (大阪府立母子保健医療センター)

2013年を迎えて今年も特に寒い2月が過ぎ、3月に入りようやく三寒四温の天候となりました。昨年の幹事会において、いくつかの提案を致しました。まず、小児病理研究会の呼称です。

改めて、小児病理研究会の経緯などを見てみました。日本小児病理研究会 (Japanese Society for Pediatric Pathology) は、小児疾患の研究、教育などの充実・発展、情報交換の促進を目的として1981年に第1回の研究会が行われ、病理医を中心に関連の臨床医を交え毎年夏に学術集会が開催されてきました。第1回から第6回までは、小児病理談話会の名称です。第7回から小児病理研究会と改称されています。そのときの検討の結果を会報から抜粋しますと、「従来、小児病理談話会はあまり形式張らない、会員相互の小児病理学勉強の場として運営されてきたが、会員も増加し、またIAPPに加入するためには会則の制定が必要でありこの際 小児病理研究会 Japanese Society for Pediatric pathologyとして発展させ、会則も作り運営することになった」とあります。昨年、会員の中から、学会に変更してはどうかという意見が出ました。研究会よりも学会の方が出席しやすいことや社会的責任をより認識することなどがその理由と考えられます。研究会から学会への移行に関しては、特別の決まりや約束事はないようです。会員の決断です。また、名称の変更に関連して、小児病院などでの医療の対象が周産期や成育期や妊婦までがその対象として広がっている状況があります。関連の雑誌名でも、Pediatric Pathologyから Fetal and Pediatric Pathology への変遷も見られます。例えば、日本小児・胎児学会への変更などはいかがでしょうか？

もう一つの提案は、第57号のごあいさつでも述べましたが、小児病理の会員相互が協力して、希少症例などを集積、登録するシステムを作りたいと思います。小児腫瘍では、数年来、臨床登録とは別に、病理登録が、小児腫瘍分類委員会で行われており、独自の成果をあげていると考えます。非腫瘍性疾患でも、病理組織の解析が重要でかつ一施設では対処が困難の疾患を決め、症例を集積。登録するシステムです。これも今回の研究会の幹事会・総会に提案し決定したいと思います。

今年度の小児病理研究会は、中澤会長の下で成育医療センターで行われます。多数のご参加をお願いします。

2. 第102回日本病理学会学術集会コンパニオンミーティングのお知らせ

第102回日本病理学会総会にてコンパニオンミーティングを開催します。小児病理に興味のある病理の先生方をお誘いの上、ふるってご参加下さい。

タイトル；小児呼吸器疾患の病理<日本小児病理研究会>

日時 (予定)：6月6日(木) 18:20-20:20

座長：井上 健先生 (大阪市立総合医療センター)

岸本 宏志先生 (埼玉県立小児医療センター)

小児呼吸器疾患の病理—囊胞性肺疾患を中心に—

田中 水緒先生 (神奈川県立こども医療センター) 小児腫瘍性呼吸器疾患の病理

福島 裕子先生 (北海道大学医学部)

当院で経験したabsence of lungの2剖検例

松岡 圭子先生 (大阪府立母子保健医療センター)

Pleuropulmonary blastomaの3例

3. 第33回小児病理研究会学術集会について（第1報）

第33回日本小児病理研究会学術集会は平成25年8月31日（土）に中澤温子先生（国立成育医療研究センター病理診断部）のお世話で、国立成育医療研究センターにて開催されます。今回の主題は小児の移植病理です。骨髄移植、肝移植、腎移植ほかの臓器移植についての演題を募集いたします。特別講演、教育講演の内容は未定です。また、第10回小児病理セミナーはより多くの臨床医の参加を募るため、病理診断セミナーを企画しています。前日、8月30日（金）には小児腫瘍症例検討会が同じ会場で開催されます。多数の会員のご参加をお待ちしております。

4. 地区集会のお知らせ

第131回
関東東海地区小児病理カンファレンス
平成25年6月21日（金）午後5時30分から
於；
国立成育医療研究センター
世話人；
国立成育医療研究センター病理診断部
中澤温子先生

*両研究会とも参加資格は特にありません。小児・周産期病理に興味のある方のご参加をお待ちしております。

第69回
関西小児病理研究会
平成25年6月22日（土）午後1時30分から
於；
大阪市立総合医療センター（大会議室）
世話人；
兵庫県立こども病院 吉田牧子先生
一般演題
記念講演 中山雅弘先生（大阪府立母子保健医療センター）

5. 事務局より・・・ご意見募集のご案内

今号の中山総務幹事の「ごあいさつ」にもありますとおり、当研究会の今後のあり方、活動について前回の総会よりいくつかの提案がなされています。会員が一堂に会しての討論は時間的に困難です。つきまいては、次号にてこれらの提案のうち3点についてアンケート調査を行います。おうかがいするのは主に下記の点です。**次号(60号)送付時にアンケート用紙を同封いたしますので、ご検討の上、幹事選挙投票用紙とともにご返送いただきたく存じます。**

1. “研究会”を“学会”に改称する。
2. “日本小児病理”を”日本小児・胎児“、“日本小児・周産期”等に改称する。
3. 胎児、小児期の非腫瘍性疾患の症例蓄積登録ワーキンググループの設置について。

など

今年度は幹事選挙の年です、次号の発送時に投票用紙も併せてお送りいたします◇本年度の学術集会は第8回アジア太平洋IAP(9月5-8日韓国・釜山)のため久しぶりの8月開催(平成25年8月31日)となります◇IPPAを含め国際学会の情報提供も行って参ります◇ご意見があれば事務局、松岡までお知らせ下さい。

6. 会費納入のお願い

本会規約により、本会会費は年間5,000円となっています。下記口座へお振り込みいただきたく存じます。ご不明の点があれば事務局 松岡までご連絡ください。

ゆうちょ銀行

【記号】10090

【口座番号】86612841

ニホンショウニビョウリケンキョウカイ
他の金融機関からお振り込みの際

【店名】〇〇八【店番】008

【預金種目】普通預金

【口座番号】8661284

日本小児病理研究会会報59号

平成25年3月14日発行

編集・発行 松岡健太郎

日本小児病理研究会事務局

<http://jspp.info/>

〒157-8535

東京都世田谷区大蔵2-10-1

国立成育医療研究センター

病理診断部病理診断科